

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101960		
法人名	社会福祉法人 旭川荘		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	岡山県岡山市中区祇園866		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370101960&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山市のグループホームの中で最も小さい規模(定員6名)である点を生かし、家庭の雰囲気の中で、安心して、心豊かに尊厳を維持して過ごせるように留意している。ご家族とのつながりも強く、共に支えているという実感がある。また、食材に配慮し、家庭料理の味を出すよう努め、食事の楽しみを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症と言っても、人それぞれに色々な障害や機能欠落部分も持った人々である。病気の事、精神状態の推移、日常生活動作能力の現状をしっかりと見つめ、理解をして、一人の人間としてその人の尊厳を大切に護っている。このホームでは、その人の今の状態を把握し、その人にとって一番幸せな生活をしてもらえるよう陰から支援をしている。この状況を家族にも正直に伝え、家族にも理解してもらって、利用者が家族と共に残された生涯を送ってもらいたいと管理者は考えている。正月には特別に御節料理を作り、家族にもホームに来てもらい、利用者と一緒に正月を楽しんでもらうようにしている。また、正月を家で暮らしてもらいたい、又、外出してもらいたいと希望もしたそうだ。利用者・家族・ホームが連携して一人ひとりの幸せを追求していこうとしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して、心豊かに、「尊厳」を維持して過ごせるよう、専門的介護サービスを提供し、「自立」へ向けた支援を行なっている。	家庭的な雰囲気の中にも尊厳第一主義で、その人らしく人としての尊厳も維持して過ごせるよう配慮している。ミーティングでも利用者本位に考えて支援していこうと常に話し合い確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の敷地は広く、日常的には地域と密な接触がはかり難い状況であるが、散歩時、法人の行事(子供祭り・夏祭等)がある時は自然に地域の方と交じり合っている。	大きな社会福祉法人の一施設であり、法人が一つにまとまっているので地域とのつながりはあまりないが、散歩の途中や、法人の行う子供祭り、夏祭りの時には地域の方たちとの触れ合いができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広義の地域貢献...後継者育成の一助(実習生の積極的受入)を担っている。狭義の地域貢献...運営推進会議のメンバーに地域の民生委員を加え、その方を通して認知症ケアについての情報を提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容... 事業所の現状報告、参加者からの質問・要望等に対する回答、評価への取り組み状況の報告。その他、意見は職員会議で報告、共有しサービス向上に結びつける努力をしている。	利用者・家族・民生委員・包括支援センター職員、管理者が参加して定期的開催し、ホームの運営状況や報告等を行い、理解を深めている。管理者は議題がややマンネリ化しているとの認識もしている。	定期的に開催できているが、メンバーも内容も固定化する感がある。市介護保険課にも参加を呼び掛け、誕生会等の行事と合わせて開催してホームの様子を見てもらい、実状を知ってもらいたいのではないか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、地域包括支援センターへ事業所の状況を伝えると共に、情報の提供を得ている。又、困難事例は地域包括支援センターに加え岡山市介護保険課に指導を受けるようにしているが事例はない。	地域包括支援センター職員を通してホームの実情を伝えたり、困難事例の相談をして協力して解決している。増築に際して岡山市介護保険課職員の訪問もあり、ホームの様子を見てもらう事が出来、ホームの増設についても指導してもらった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束禁止は当然のことと認識している。また、具体的な行為についても理解している。夜間を除き玄関の施錠も行っていない。	カテーテルを引っ張り抜こうとする方には医師の指示によりつなぎ服を、不意に車椅子から立ち上がろうとする方には家族の希望から安全ベルトをしたり、ベッドから転落防止の為、柵をしている事例もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の基本理念は利用者の「尊厳」を守ることであり、その事は徹底しているため、虐待は起こりえない。加えて管理者は職員に疲れ、ストレスが溜まらないよう勤務配慮、コミュニケーションに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族との連携が十分取れており現在は必要性を感じない。必要時に困らないよう管理者は知識として得ている。又、家族に弁護士がいるのでいつでも相談できる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針、家族との連携、ケア内容等を契約書、重要事項説明書に沿って説明し納得を得ている。改定等の必要時には説明会を開き理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、毎日のコミュニケーションを通じ要望を吸い上げている。家族とは主として面会時のコミュニケーションを通じて意見・要望を伺っている。また、運営推進会議でもその機会がある。	利用者と日々のコミュニケーションや家族と電話連絡を密に取り、面会時にもよく話し合っている。ホームの働きかけもあり、家族の面会も多く、自由に発言でき運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回職員会議を行ない意見交換を行っている。協議内容は事業所運営、利用者サービスに反映させている。	月1回職員会議を開き、事業所運営や利用者サービスについて自由に意見交換している。その時2～3例のモニタリングも併せて行う。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には時給に反映させ励みとしている。また、必要な研修は受講させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は内外問わず積極的に参加機会を作っている。また、資格取得し易い配慮をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の研修は事業所に案内がある。事業所の判断で参加が可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者を中心に、介護者は居室担当制をとっており、担当者がキーパーソンとなり十分なコミュニケーションが図れている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までのご本人との関係、ご家族の不安や要望をお聞きした上で、施設として『出来る事』『不可能なこと』『努力してみる事』『家族に協力してもらいたい事』等を率直に話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でご本人・ご家族等から得た情報を元に、職員間で情報共有し、支援計画作成をしている。サービス開始後は、修正点を会議で検討し、サービスに反映している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・味付け・片付け等の可能な部分、洗濯物たたみ、掃除、庭の手入れ等日常生活全般において、利用者と共に行なっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時及び定期的に、日常生活の様子をご家族に伝え、主として家族にしか出来ない精神的支柱の部分を家族の役割として協力していただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の夏祭りには多くの地域の方の参加があり、昔の知人・友人に会える機会となっている。又、盆・正月には外出・泊を勧め、家族・親戚との関係維持支援に努めている。不可能な場合は面会をお願いしている。	日頃散歩で馴染みの人に出会う機会はないが、友人や知人が気軽に訪ねてくれて親交を深めている。また、法人の行う子供祭りや夏祭りには近くの友人たちに会える良い機会となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者・職員全員が、日常生活の多くの時間を居間・食堂で過ごすため、意識することなく常に会話があり、自然に利用者同士の関わり合い・人間関係もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療の対象となり、入院・退所となった方にはお見舞い、特養へ移られた方には様子伺いをするなどしている。但し越権行為にならないように留意している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の思いや意向の把握に努めている。又、ご家族からの情報の下、ご本人の趣味・嗜好等を取り入れ、日常生活に生かせるよう努めている。	本人の気持や希望最優先で本人に聞いて決めてもらっている。発語の少ない方は表情や何気ない仕草で思いをつかむようにしている。訪問した日、朝寝坊して10時過ぎに朝食の方が居たが、みんな温かく見守っていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族との話し合いの中から、過去の体験や現在の思いを汲み取った支援を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の出来事・状態、かわりを記録し、職員全体で共有している。又、日課を作らず、利用者の状態、意向の中から1日の過ごし方が自然に行なわれている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部屋担当を中心に、利用者の日常生活の中からリアルタイムにニーズを把握し、モニタリング資料も加えたものを職員会議で検討、更にご家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	部屋の担当者から利用者の思いやニーズを聞き、計画作成者である管理者がプランを作成し、家族や全員で検証している。変化があればその都度、プランの見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や暮らしの様子を日誌・個人記録・申し送りノート等の記録から職員が情報共有し、日々の介護に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設規模が小さく小回りが利くため、家族と連携した柔軟な取り組みがその時々で出来る環境下にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生日等には市街地へ家族と食事に出かけたりしている方もいる。又、併設施設の行事などへ参加している。実習生と近隣を散歩し、四季の移り変わりを楽しんだり地域の人とのかかわりを持っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による隔週の回診、又、特変時にはその都度往診を依頼するか通院している。現在は家族の希望により全員法人内の医療機関で受診している。歯科は必要時に法人内の歯科で受診している。	全ての入居者は母体の医療機関の医師がかかりつけ医で、隔週の往診がある。緊急時にもすぐ対応してくれるし、提携病院への搬送もスムーズにいくのでとても心強い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さないように、毎日バイタルチェックを行い、早期発見に取り組んでいる。体調変化があれば、主治医(昼間)、訪問看護ステーション(夜間)へ連絡し指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法に関する情報提供を行い、入院中に見舞い時には詰め所に寄り、病状の情報把握に努めている。得られた情報は職員間で共有、退院後も適切なケアが出来るようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のあり方について説明、納得していただいている。終末期には、本人・家族の意向を重く受け止め、随時、家族・医療機関と連携をとり、施設としてできる限りの対応が取れるような体制としている。	入居時に重度化した場合についてよく説明し、納得してもらっている。本人、家族の希望があり、医療的な問題がなければ、医師・看護師・家族と連携を取って看取りをしていきたいと考えているが、まだ看取りの例はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを作成し、食中毒・インフルエンザ・誤嚥予防等の周知徹底を図っている。又、救命救急法の研修会にも参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、防火管理者の指導の下に、定期的に法人・併設施設と合同で利用者とともに、防災訓練(地震・消火器・非難)を実施している。	マニュアルを作成し、法人、併設施設と合同で年2回訓練を行っている。法人の自衛消防団の訓練も年1回行っている。その他火災報知機の使い方の説明も業者から受けている。スプリンクラーも設置中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の生活歴、性格等を考慮し、言葉遣いに注意を払っている。又、個人情報の管理を徹底しプライバシーに関わるような内容・話題には触れないようにしている。	トイレで排泄の場合、下着を下げる前に「ゴメンネ！下げさせてね」と声掛けして羞恥心を和らげるよう気をつけている。日頃の話方も気さくな中にも打ち解け過ぎないよう意識していると言う。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせた声かけをし、話しやすい雰囲気づくりをしている。特に口数が少ない方には留意している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースは異なっているので利用者本位に徹底強制はしていない。その日の状態を把握し、穏やかに過ごせるよう留意している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用洋服は一緒に選びオシャレ感覚を失わないようにしている。又、日々の整容には留意し不意の面会・来客時にも恥ずかしい思いをしないように留意している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・味付け・片付け等の可能な部分は一緒に行なっている。又、利用者と職員が同じテーブルを囲み、談笑しながら楽しく食事をしている。	朝寝坊して10時過ぎに朝食を摂り、昼食はまだほしくないマイペースの人が居たが、職員は無理強いせず見守っていた。食事は職員の手作りでとても美味しく、職員も同じテーブルでみんなと食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない方には、食べたいものを食べたいときに召し上がっていただけるようにしている。又、水分摂取には特に注意し必要量の確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。夕食後には義歯を預かり、洗浄剤に浸し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導・ポータブルトイレの使用を行っている。声かけはさりげなく行ない、自尊心を傷つけないよう配慮している。	6人中4人がオシメをしているが、昼間はさりげなく声掛けしてトイレ誘導して、便器での排泄を促している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないようにするため、繊維質の多い食材を使用している。水分補給を徹底し、便秘症状にならないようにし、自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が拒否されたり、体調不良者を除き、週4回を基本に入浴を行なっている。	入浴拒否する方には、日を変えたり人を変えて入浴を促す様試みている。それでもまだ拒否する場合、「もう臭うようになったのじゃない？」と言うと「そんなに言うなら・・・」とやっと入浴してくれる。(この方の場合、家族から清潔な暮らしをさせて欲しいとの希望あり)	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂・居間で過ごされる方が多いが、自室でTVを観たり、ベッドで横になれる方もおられる。夜間、寂しさを訴える方には、話し相手になり寂しさ・不安を取り除いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作成し、回診・通院で変更があれば申し送りノートに記入し、職員全体で把握するようにしている。又、服薬時は職員が必ず立会っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の経験を活かし、家事・庭の手入れ・洗濯ものたたみ等を役割としてされている。又、新聞を読むのを楽しみにしている方もおられる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設回りの散歩、売店への買い物、実習生との散歩、ご家族との外出等が主なものである。	実習生と一緒に施設の近くを散歩したり、売店に買物に出掛けている。遠くへの外出は家族にお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の方は全員、所持金は事務所で預かりし、一緒に買い物等の場合は、ご本人の財布を持って出かけ楽しんでいただけるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時、必要時には職員と一緒に電話をしている。年賀状は全員数枚ずつ出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは職員も同じように使用しているので、不快や混乱がないと思いがちであるが、かえって落とし穴があると思っている。時々、外来者に率直な意見を求めている。草花でもいいので花瓶の花は切らさないようにしている。	日当たりの良いリビングにはテーブルやソファが置かれ、思い思いの場所に座っている。似顔絵の得意なAさん。今日初めてC子さんを描く。「私こんな顔と違う!」と不満気。とても和やかな雰囲気か漂っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の一角が落ち着ける場所となっているが、自室に勝るものはない。気の合った人は互いに訪室して話されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・寝具・装飾品などを持ってきていただいている。新たに必要となった場合は、ご家族に説明し持ってきていただくようにしている。	使い慣れた衣装ケースや寝具等を持ち込み、家族の写真や花を飾っている。自分で造ったタンスを持ち込む人も居て、その方らしい居心地の良い部屋になっている。夜間、ベッド横にマットを敷いて転落したとき怪我をしないように配慮している方も居る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札、トイレに表示をつけて場所を確認できるようにしている。自分で確認し自信を持つことで認知症の進行が緩やかになるようにしている。		